

2024年度
小論文
(公募制)

2023年11月19日実施
獣医学部 生物環境科学科

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【注 意 事 項】

1. 試験監督(試験開始)の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題冊子は1ページから3ページまであります。
4. 試験監督の指示により、問題冊子と解答用紙に**受験番号**および**氏名**を記入しなさい。
5. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて試験監督に知らせなさい。
6. 試験終了後、問題冊子と解答用紙はともに机上に置いておくこと。持ち帰ってはけません。

(余 白)

以下の文章を読み、設問に答えなさい。

食料自給率が低下する中、果たして食料の供給は安定的に継続するのでしょうか。世界の食料と農業を取りまく現状を見ていきましょう。

国連人口基金によると、世界人口は2015年の73億人から2050年には97億人に、食料需要も2000年の45億トンから2050年には69億トンまで増加する見通しです。

世界全体の穀物生産量は、これまで単位面積当たりの収穫量(単収)の向上によって支えられてきましたが、近年その伸び率は鈍化しています。

また、肉類消費量の増加も食料需給をひっ迫させる要因のひとつです。国民1人当たりの所得が向上すると肉類消費量が増加する傾向にあり、とりわけ中国やインド、ロシアなどは急速に経済成長を遂げています。農林水産省によると、畜産物1キロを生産するために必要な穀物飼料(トウモロコシ換算)は、牛肉11キロ、豚肉7キロ、鶏肉4キロ、鶏卵3キロで、肉食需要の増加が穀物需要の増加につながるという相関関係です。

さらに、トウモロコシなどから生産されるバイオエタノール原料用の穀物需要も増加しているため、人間、動物、エネルギーによる食料の奪い合いが現代社会の食をめぐる構図といえます。こうした状況のもと、食料の海外依存は国民の不安を招く事態を引き起こします。

ここで、二つの教訓を紹介します。ひとつは、2008年に起こった「世界同時食料危機」です。この間、世界の穀物生産量は当時の過去最高を記録しましたが、先ほど述べた要因に投機マネーの流入も加わったことから、食料価格の高騰が起こり、ハイチやブルキナファソ、カメルーンなどでは暴動が発生しました。加えて、食料輸出国が輸出規制を実施し、穀物輸入国では食料危機が引き起こされたのです。

もうひとつは、コロナ過の教訓です。COVID-19のパンデミック(世界的流行)は、私たちの暮らしを一変させました。それは、食と農の現場も同様です。流通の制限、国境封鎖、ロックダウン(都市封鎖)などが原因で、グローバル・フードシステムの脆弱性があらわになったのです。

(出典：小口広太『日本の食と農の未来「持続可能な食卓」を考える』(光文社) 2021年9月30日 p 31-33)

* 問題作成上の都合により本文の一部に手を加えてある。

設問 人間、動物、エネルギーによる食料の奪い合いをどのように調整することが持続可能な食料の供給につながるのか。あなたの考えを800字以内で述べなさい。